

## 2 鶺鴒の池公園周辺の自然

### (1) 地形・地質

黒坂小学校から矢倉峠へ向かって約3km進むと、日野川の河床から200mほど高い標高440m前後のやや平坦な面があります。ここに周囲が約4km、深さは最大12mほどの池が見えます。これが鶺鴒の池です。この付近では、日野川に沿って同じような標高に平坦な面が続きます。

鶺鴒の池は、日野川が谷を掘り進め、しだいに下の方を流れるようになる過程でできたと考えられています。この辺りは、もとは沼地だったのですが、江戸時代に灌漑用の池にするために、堤が築かれました。さらに昭和に入り、中国電力が発電に利用する計画のもと、印賀川の水を地下を通して鶺鴒の池に導き、下黒坂方面を50mの堤防によって囲ったので一大貯水池ができ、現在の鶺鴒の池が誕生しました。鶺鴒の池を長楽寺に向かって進むと、葦池や長楽寺のため池などもあります。

この周辺の地質は中生代末期(6500万年前頃)の貫入岩である花崗岩で、特に日野川に沿った山肌にはやや風化作用の進んだ岩肌が見えています。



鶺鴒の池公園全景



鶺鴒の池湖畔の様子



基盤となる花崗岩



鶺鴒の池の堤



葦池全景

## (2) 植物

### ① 主な樹木

鵜の池のキャンプ場周辺にはアカマツ、コナラ、ナラガシワ、クリ、オニグルミ、クマノミズキといった比較的高い木が、そして湖畔沿いにはネムノキ、エゴノキ、カワラハンノキなどが生育しています。また、堤を渡り、日野川側の池沿いや道沿いの斜面にはオオモミジ、コナラ、エノキ、ヤマボウシ、ホウノキ、コアシサイなどが生育しています。



**カエデ科 オオモミジ**  
(4～5月)

イロハモミジよりひとまわり大きい葉が特徴。葉の縁には細かくそろったぎざぎざがある。直径は7～11 cm。



**エゴノキ科 エゴノキ**  
(5～6月)

ベルのような形の花を下向きに鈴なりに咲かせる。実は、ラグビーボールの形をしている。



**ミズキ科 クマノミズキ**  
(6～7月)

高さ8～12mになる。葉は枝先に集まってつく。果実は、7～10月頃に紫黒色に熟す。花序の枝は赤い。



**ブナ科 クリ**  
(6～7月)

紐状の雄花はたくさん垂れ下がる。独特の強い香りで虫を誘う。果実は9～10月頃に熟す。シバグリの別名がある。



**ブナ科 コナラ**  
(4～5月)

高さ15～20mになる。雌花は葉柄の根につき、雄花は黄褐色で垂れ下がる。実は1.5～2 cmの楕円形をしている。



**バラ科 ナナカマド**  
(6～7月)

花は、白色で枝先に半球状につく。実は赤く鮮やか。10～11月頃熟す。10月頃に紅葉する。



**モクレン科 ホオノキ**  
(5～6月)

高さ20～30mになる。葉は大きく長さ20～40cmになり、枝先に集まる。



**マメ科 ネムノキ**  
(6～7月)

夜になると葉を閉じることからこの名がついた。夕方開く花は、おしべが長く伸びたものの。



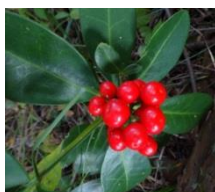
**ミズキ科 ヤマボウシ**  
(6～7月)

花は白い部分の中にあり、緑色で小さく気づかれない。実は9月下旬頃に赤く熟す。



**ブナ科 ナラガシワ**  
(5月)

高さ25mの大木にもなる。葉柄は1～3 cm。実は長さ2 cmほどの楕円形をしている。



**ミカン科 ツルシキミ**  
(4～5月)

雌雄別株で、香りのある白い花をつける。直径5～8 mmの実をつけ、12～2月頃赤く熟す。幹の基部が地上をはうのが特徴。



**バラ科 フユイチゴ**  
(9～10月)

つる性の常緑低木。枝先に白い花が固まって咲く。11～1月に赤い実が熟す。全体に毛が多く、とげは少ない。



## ② 主な野生植物

鵜の池公園には、キャンプ場の周辺、池の道沿い、<sup>がけ</sup>崖、林の中など、様々な環境に適応し、多くの野生植物が生育しています。特に日野川側の道沿いは、池周辺の樹木や湖畔の道路沿いに生育している山側の樹木などに日光がさえぎられているので、シダ植物を中心とした<sup>ひかげ</sup>日陰に生育する野生植物が多く生育しています。また湖畔の<sup>しめ</sup>湿った林の中にも<sup>ぜつめつ</sup>絶滅が心配される希少な植物も生育しています。その主なものを<sup>しょうかい</sup>紹介します。



キク科 アキノキリンソウ (8～11月)

秋を<sup>いろど</sup>彩る野草の一つ。茎の上の方にたくさんの黄色い花がつく。別名をアワダチソウともいう。



シソ科 ウツボグサ (6～8月)

名は花の穂の形が矢を入れる<sup>うつぼ</sup>鞆に似ていることによる。日あたりの良い場所に生える。



ツリフネソウ科 ツリフネソウ (6～9月)

茎は赤く節はふくらんでいる。花は赤<sup>むらさき</sup>紫色で花の柄に数個つく。実は熟すとちょっとした刺激ではじけて種子が飛び出す。



バラ科 キンミズヒキ (7～10月)

名は、黄色い花がタデ科のミズヒキに似ているのでつけられた。熟した実は衣服や動物について運ばれる。



リンドウ科 フデリンドウ (3～5月)

山野の日あたりの良いところに生える小さな2年草。茎の高さは、6～9cmになる。



ユリ科 ヤマジノホトトギス (8～10月)

山野の林の中に生える。花は上向きにつき、花は茎の先に1～3個つく。花被片に<sup>あか</sup>紅紫色から<sup>あんし</sup>暗紫色の斑点がある。

## 【葦池の植物】

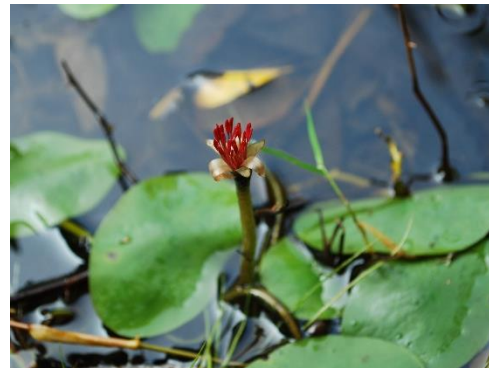
### 葦池の様子



スイレン科 コウホネ (6～9月)

名は、横にはう太くて白い地下茎が白骨のように見えることによる。水上に出る葉は、長い卵形で、長さ20～30cm。花は黄色のお椀形。

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



スイレン科 ジュンサイ (花期：5～8月)

池や沼に生える水草。茎や葉の裏面等が粘質物に被われている。葉は、水面に浮かび、長さ5～10cm。

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



タヌキモ科 イヌタヌキモ (8～9月)

ため池浮遊する多年草。茎は細く長く伸びて1mにもなる。花茎は茎よりも太く高さ20cmになる。花は黄色で球形の実になる。

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



スイレン科 ヒツジグサ (6～9月)

池沼に生える多年草。花は長い花の柄の先に1個つける。葉は広い楕円形で、長さは10～20cm。日中に開いて、夜に閉じる。

鳥取県：準絶滅危惧



### (3) 動物

鵜の池公園には、たくさんの野鳥をはじめ、昆虫の仲間が生息しています。ここでは、主にチョウやガの仲間、トンボの仲間、オトシブミの仲間などについて紹介します。

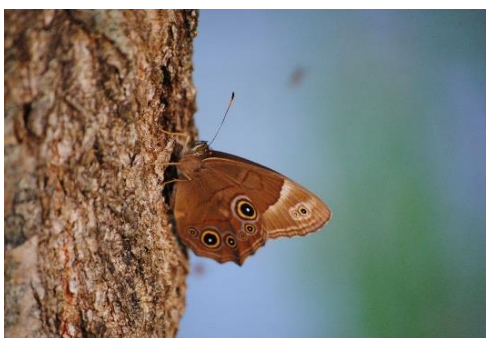
#### ① チョウの仲間



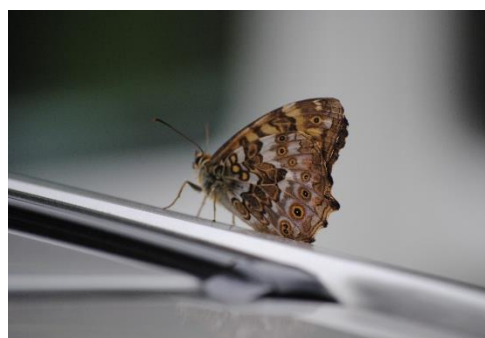
タテハチョウ科 ヒメウラナミジャノメ (3~9月)  
全長 18~24mm 裏面は、細かい波模様の地に前に1個、後に5~6個の蛇の目の斑がある。



シジミチョウ科 ミズイロオナガシジミ (6~7月)  
全長 11~18mm しっぽ(尾状突起)が長いシジミチョウ。飛ぶと水色っぽく見える。



タテハチョウ科 クロヒカゲ (5~9月)  
全長 23~33mm ヒカゲチョウを黒っぽくした感じのチョウ。目玉模様の内側の線が「く」の字に曲がる。



タテハチョウ科 サトキマダラヒカゲ (5~6月)  
全長 26~39mm 裏面は手の込んだ迷路模様。樹幹によくとまり、全然翅を開かない。



シジミチョウ科 ゴイシジミ (5~10月)  
全長 10~17mm 翅の裏は、白地に黒い碁石をばらまいたような模様をしている



タテハチョウ科 ゴマダラチョウ (5~6月・8月)  
全長 35~50mm 黒褐色の地に白い斑模様の雑木林のチョウ。クヌギやコナラの樹液に集まる。

#### 【その他見かけるチョウ】

キタキチョウ・テングチョウ・イチモンジチョウ・ミドリシジミ・ルリタテハ・クロコノマチョウ等

## ○チョウとガの見分け方

チョウとガには、一見するとよく似たものが多いです。そんなときに見分けるポイントとしては、花や枝先にとまる時などに、<sup>はね</sup>翅を閉じてとまっているのはチョウの仲間、開いてとまっているのはガの仲間です。ただし、例外があるので、<sup>しよつかく</sup>触角の形にも注意してみてください。チョウの仲間の触角は、先が少し丸みを帯びた<sup>こん</sup>棍棒状になっていますが、ガの仲間の場合、オスはクシひげ状、メスは長い線状になっていたりします。

《チョウの仲間》 翅を閉じてとまることが多い。

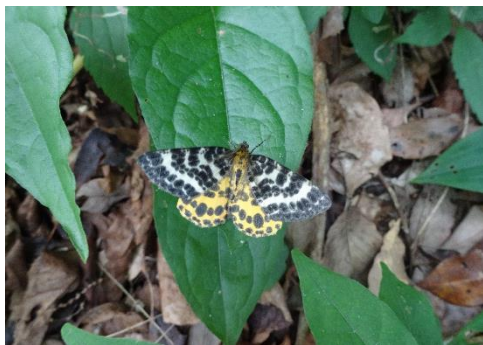


**タテハチョウ科 テングチョウ (6~7月)**  
全長 19~29mm。天狗のように突きでた鼻(<sup>かしのん</sup>下唇鬚)と、<sup>かれは</sup>枯葉のような裏面を持つ。



**シロチョウ科 キタキチョウ (ほぼ1年中)**  
全長 18~27mm。表裏ともに地色は黄色。普通表には外縁黒帯がある。最近「キチョウ」はキタキチョウとミナミキチョウに分けられた。

《ガの仲間》 翅を開いてとまることが多い。

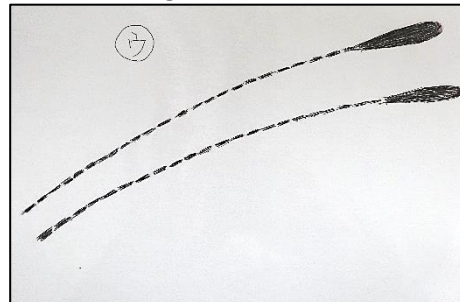


**シャクガ科 ヒヨモンエダシャク (6~9月)**  
<sup>ぜんし</sup>前翅はごまだら模様。後翅半分が、黄色をしている。



**アゲハモドキガ科 キンモンガ (5~9月)**  
黒と濃い黄色の2色の翅が特徴的<sup>ちよう</sup>で容易に見分けることができる。日中に飛翔<sup>しやう</sup>する。

触角の見分け方 (ガ…オスはクシひげ状㉞, メスは線状㉟ チョウ…先が棍棒状㉟)





## ② その他の昆虫（オトシブミの仲間）

オトシブミは葉を巻く性質を持ったゾウムシの仲間です。鵜の池の木々にも様々な種類のオトシブミが揺籃を作っています。種類によって揺籃を作る木が決まっています。アカクビナガオトシブミはズミ・サクラ・ハンノキなどに、コブオトシブミはコアカソ・ヤブマオに、エゴツルクビオトシブミはエゴノキなどに産卵のための揺籃を作ります。この中で孵化し幼虫となり蛹を経て、成虫として出てきます。大きさが、2～9mmととても小さいので注意して観察する必要があります。



アカクビナガオトシブミの成虫（オス）



ハンノキに産み付けられた揺籃

オトシブミ亜科クビナガオトシブミ族 アカクビナガオトシブミ 体長：6.0～8.5mm  
 体は全体的に赤褐色で、頭部や脚が暗色。オスの頭部は細長い。



コブオトシブミの成虫



カラムシの葉に産み付けられ揺籃

オトシブミ亜科マダラオトシブミ族 コブオトシブミ 体長：6.0～7.2mm  
 上翅中央付近に一对のコブがある。足は黄色で光沢がある。オスとメスの形態差はほとんどない。



エゴツルクビオトシブミの成虫（オス）



エゴノキの葉に産み付けられ揺籃

オトシブミ亜科クビナガオトシブミ族 エゴツルクビオトシブミ 体長：8.0～9.5mm  
 全体に黒色で光沢がある。オスは後頭部と前胸前半部が伸びた鶴のように長い首をもつ。

### 3 日野川の自然

#### (1) 地形・地質

日野川は、日南町の三国山（標高 1004m）を源流として、日野町、江府町、<sup>ほうき</sup>伯耆町を通り、美保湾<sup>わん</sup>に流れ込む全長約 77km の一級河川です。日野川は主に<sup>かこう</sup>花崗岩地帯を流れます。日野町内の主な支流は<sup>なかすげ</sup>中菅を流れる<sup>おうみ</sup>近江川、<sup>くすみ</sup>久住を流れる<sup>てんごう</sup>天郷川、<sup>あきつな</sup>秋縄、<sup>にごたに</sup>濁谷を流れる<sup>まなすみ</sup>真住川、<sup>かもろ</sup>金持、<sup>こお</sup>高尾、<sup>こお</sup>根雨を流れる板井原川などがあります。

日野川周辺には、多くの植物、<sup>ぎょかい</sup>魚介類、鳥類、魚類、<sup>は</sup>爬虫類、<sup>は</sup>両生類、<sup>こん</sup>昆虫などが生息し、生物の宝庫となっています。



日野川の流れ（黒坂周辺）



<sup>ねざめきょう</sup>寝覚峽

黒坂から約 2 km 下流の<sup>おぶつ</sup>敷津橋付近で、日野川は大きく蛇行する。ここでは<sup>はば</sup>谷幅が日野川で最も狭く、両岸は、切り立った崖<sup>がけ</sup>になっている。ここは「寝覚峽」と呼ばれ、景勝地となっている。  
<sup>しん</sup>花崗岩の浸食地形。



カヌーの里付近の巨石



支流の板井原川



支流の近江川



## 【本郷・下榎付近の玄武岩の巨石】

日野川の下榎付近の川岸や川底には、玄武岩の巨石が点在しています。これは、国道 180 号線をはさんで、そそりたつ野路山からくずれ落ちたものと考えられています。

漆原から倉谷にかけてそびえる野路山は、新生代新第三紀鮮新世の終わり頃から第四期更新世の始め頃（約 200 万年前頃）に活動した火山によってつくられました。特に漆原の南と本郷の山頂に近い高いところには、この玄武岩の露頭が、きりたった垂直に近い大きな崖壁となった、玄武岩に特徴的な柱状節理をみることができます。



野路山全景

柱状節理

玄武岩の巨石

玄武岩の偏光顕微鏡写真→

## 【玄武岩とは】

マグマが地下の浅いところや溶岩のように地表にふきだして冷え固まったものは火山岩と呼ばれています。玄武岩はこの火山岩の仲間です。玄武岩は花崗岩などの深成岩と違い、顕微鏡で見ると、肉眼でもはっきりと見える「かんらん石」や「輝石」といった鉱物（斑晶）が肉眼ではわからないような細かい粒（石基）にぎっしりと囲まれています。

## (2) 動物

日野川の上流域にあたる、日野町にはたくさんの鳥類、<sup>ぎょかい</sup>魚介類、<sup>こん</sup>両生類、昆虫類などが関わりを持ちながら生活をしています。

### ① 鳥類

日野川には、特に冬季に北から多くの冬鳥が渡<sup>わた</sup>ってきます。ここでは、オシドリ、コガモ、マガモ、ホシハジロ、キンクロハジロといった水鳥を中心に<sup>しょうかい</sup>紹介します。



**カモ科 オシドリ**  
全長：42cm 冬鳥

鳥取県の鳥に指定されている。主に植物質を食べ、ドングリを好む。

鳥取県：準絶滅危惧



**カモ科 ホシハジロ**  
全長 45cm 冬鳥

茶色の顔に黒い胸、灰色の背中が目印のカモ。オスの眼は赤い。潜水して植物を食べる。



**カモ科 マガモ**  
全長：59cm 冬鳥

オスの頭と首は鮮やかな緑色で、<sup>くちばし</sup>嘴は黄色い。全身が<sup>もぐ</sup>潜ることはほとんどない。植物食。



**カモ科 キンクロハジロ**  
全長：40cm 冬鳥

金色の目、黒い身体、白い<sup>つばき</sup>翼。オスは腹以外が黒色で<sup>かんう</sup>冠羽を持つ。メスは全体が<sup>こっかつしよく</sup>黒褐色。



**サギ科 アオサギ**  
全長：93cm 留鳥

日本のサギ類で最大。嘴は黄色で長くとがる。魚類やカエルを食べる。



**ウ科 カワウ**  
全長：81cm 留鳥

潜水して魚を<sup>と</sup>捕る。足に水かきがあり水中を<sup>たく</sup>巧みに泳ぐことができる。



**カモ科 トモエガモ (オス)**  
全長：40cm 冬鳥

オスは顔に緑と黄色の<sup>ともえ</sup>巴模様がある。メスは全体に茶褐色をしている。

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



**カモ科 コガモ (オス)**  
全長：38cm 冬鳥

日本最小のカモ。オスの目の後ろの緑が目立つ。水辺を歩きながらイネ科等の種子を食べる。



**サギ科 ダイサギ**  
全長：90cm 漂鳥

日本のシラサギ類で最大。冬は嘴は黄色く飾り羽は短い、夏は嘴は黒色で飾り羽は長い。



**カモ科 カルガモ**  
全長：61cm 留鳥

一年中見られる。嘴は黒く先が黄色。雌雄は同色で識別は難しい。

### 【その他の水辺にやって来る鳥類】



**ヒタキ科 ジョウビタキ (オス)**

全長：14cm 冬鳥

オスの下面のオレンジ色が美しい。おじぎをするように頭を下げ、<sup>お</sup>尾を振る動作をする。嘴は細くてとがる。翼に<sup>はくはん</sup>白斑がある。



**カワセミ科 カワセミ (オス)**

全長：17cm 留鳥

背中が光沢のあるコバルトブルー、腹面がオレンジ色で、「飛ぶ宝石」と呼ばれる。メスは下嘴が赤い。日本のカワセミ類で最小。



## ② 魚類

日野川の上流域にあたる日野町は、冷水を好むサケ科のイワナやヤマメなど、たくさんの魚が生息しています。



**アユ科 アユ**  
全長 10~30cm  
(生息域：中流~河口)  
日本の国魚といわれる。秋に川で生まれた幼魚は海へ下り、大きくなって春に川へもどる。えらぶたの後ろに黄色い斑点がある。



**サケ科 アマゴ**  
全長 25cm  
(生息域：上流~下流)  
体表に朱点を持つ。体側のパーマークがよく目立つ。水生昆虫等を食べる。



**サケ科 イワナ**  
全長 30~60cm  
胸・腹・尻びれの前縁が白い。主に山間部の溪流に生息する。水生昆虫や落下した陸生昆虫を食べる。  
鳥取県：準絶滅危惧



**サケ科 ヤマメ**  
全長 30cm  
(生息域：上流~下流)  
体側に楕円のパーマーク(幼魚斑)を持つ。川で一生活を過ごす。  
鳥取県：準絶滅危惧



**コイ科 タカハヤ**  
全長 10cm  
(生息域：上流~中流)  
銀粉を散らしたような身体の色をしている。



**コイ科 ムギツク**  
(生息域：中流~下流)  
オヤニラミ等、卵を保護する魚の巣に卵を産み付け育てさせる。口から尾びれまで、黒い縦条が入る。



**ハゼ科 カワヨシノボリ**  
全長 6cm  
(生息域：上流~中流)  
一生を川で過ごすヨシノボリの仲間、湖や池等にはいない。



**ドジョウ科 ドジョウ**  
全長 12cm  
(生息域：中流, 水路)  
ひげは5対10本。水中の酸素が少なくなると口から空気を吸い、腸で呼吸をする。



**ドンコ科 ドンコ**  
全長 25cm  
(生息域：上流~中流)  
三角形の頭の部分が特に大きい。背びれの付け根に黒色斑がある。オスが卵を保護する。



**メダカ科 メダカ**  
全長 4cm  
(生息域：水路, 湖沼, 水田)  
水路や池等に生息する。目の位置が高いので目高という。移入された可能性のある個体群も多い。

県内では日野川水系にのみ分布する希少種のオヤニラミや、近年河川工事や水質変化で数が減り県の絶滅危惧種に指定されているスナヤツメなど貴重な魚類も多く生息しています。



**ヤツメウナギ科 スナヤツメ**  
全長 15~20cm  
(生息域：中流~下流)  
幼生期を経て変態して成魚になる。胸びれや腹びれはない。砂礫の中にもぐって生活をする。成魚になると餌を食べない。  
鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



**スズキ科 オヤニラミ**  
全長 13cm程度  
(生息域：中流~下流)  
えらぶた後方に眼状紋がある。体色をよく変化させる。鳥取県内では日野川水系にのみ生息する。  
環境省：絶滅危惧Ⅱ類

### ③ 水生生物（魚類を除く）

日野川流域、特に上流域にあたる日野町付近には、国の特別天然記念物で環境省と県の絶滅危惧種に指定されているオオサンショウウオや、体が平たく美しい声で鳴くカジカガエルなどの両生類が生息しています。また一生を淡水のみで暮らすサワガニ、スジエビ、ヌマエビといった甲殻類、春から夏にかけて川面を飛び交うカワトンボの仲間やそのヤゴなど、多くの種類の生物が生息しています。

#### ○両生類



オオサンショウウオ科 オオサンショウウオ  
全長 30~150cm

世界最大の両生類で日本固有種。

環境省：準絶滅危惧種



アオガエル科 カジカガエル  
全長 オス 37mm~44mm メス 49mm~69mm

体形は扁平。体色は茶褐色から灰黒色。後ろ足にだけ、大きな水かきがある。

#### ○甲殻類



サワガニ科 サワガニ 甲幅 2~3cm

溪流等の純淡水にすむカニ。卵はメスの腹部についたまま孵化する。



テナガエビ科 スジエビ 体長 4~6cm

(生息地：上流~河口、湖沼)

透明感のある体に黒い縞模様が入るのが特徴。河川産の個体群は大型の傾向。

#### ○トンボ類

特によく見られるカワトンボの仲間には、ニホンカワトンボ（オスには3種類ものはねの色がある）、ミヤマカワトンボ（カワトンボの中では最大種）、翅や体が青藍色に輝くアオハダトンボ（県では準絶滅危惧種に指定）、黒い翅の色や飛ぶ姿から「神様トンボ」など別名の多いハグロトンボなどが生息しています。





アオハダトンボ (5~7月)



ニホンカワトンボ (4~7月)



ミヤマカワトンボ (5~10月)

## ○水生昆虫<sup>こん</sup>

小型の水生昆虫の種類も多く、成虫になるとはばたいて飛んでいくものには、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、ヤゴの仲間などがいます。これらの水生昆虫のほとんどが、上流から下流にかけての石の裏側や石と石の間をはいまわったりして暮らしています。

### (カゲロウの仲間)



エルモンヒラタカゲロウ (12mm)



オオマダラカゲロウ (17mm)



サホコカゲロウ (7mm)



チラカゲロウ (18mm)



カワゲラの仲間【幼虫】(30mm) 【成虫】(全長 40mm)

### (ヤゴの仲間)



ニホンカワトンボ (31mm)



コオニヤンマ (35~40mm)



サナエトンボの仲間

### (その他貝類等)



ヒゲナガカワトビケラ (38mm)



カワニナ (殻高 3cm)



マシジミ (殻長 4cm)

#### ④ 日野川に舞うゲンジボタル

日野川，特に舟場付近では，6月上旬から下旬にかけ，数千匹を超えるゲンジボタルの乱舞を観察することができます。岸边あたりには，ハイケボタルの発光も同時に見ることができます。ホタルには，幼虫時代を水の中で過ごす水生ボタルと幼虫時代も森や林に住む陸生ボタルがいます。現在知られているホタルは国内でも約 50 種，世界では約 2000 種だと言われています。水生ボタルは世界でも約 10 種しかおらず，そのうちの3種が日本で暮らしています。ゲンジボタル，ハイケボタルがそれにあたります。



日野川（舟場）



ゲンジボタルの発光（舟



ホタル科ゲンジボタル（オス）



ゲンジボタル幼虫の上陸



発光するゲンジボタル幼虫

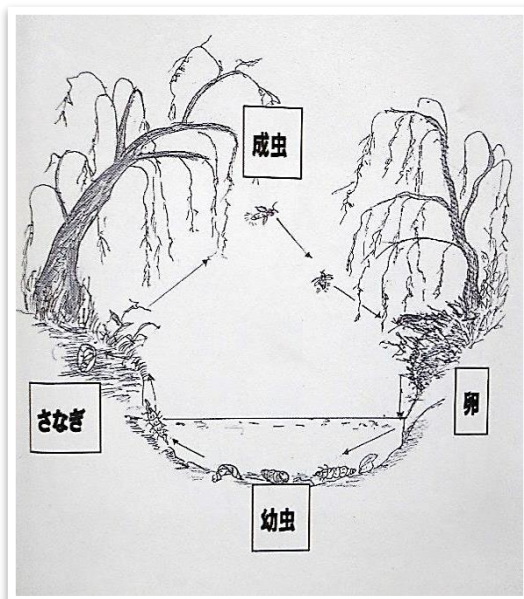
#### 【ゲンジボタル】

体長：オス 14mm 前後

メス 18mm 前後

日本にだけ生息する水生ホタル。前胸部の背の模様が黒色の十字型に見える。きれいな水辺に生息する。

#### ゲンジホタルの一生



- ①水の上にはり出したところのコケに卵を産む。（直径約 0.5mm）
- ②卵は約 20 日後に孵化する。川面に落下後，幼虫の体にあったカワニナを食べる。
- ③4月上旬の桜が満開になる頃，雨天の暖かい夜，光りながら上陸を開始し，土の中にもぐり 40 日ほどで蛹になる。
- ④蛹から 10 日前後で羽化し地上へ。発光しながらパートナーをさがし約 1 週間の命。



## 【日野町に生息するホタルの仲間】



ヘイケボタル (オス)



オオマドボタル



オオオバボタル



ヘイケボタル幼虫



オオマドボタル幼虫



オオオバボタル幼虫



ヒメボタル (上:オス・下:メス)

### 【ヘイケボタル】

体長：オス約 9mm

水田や用水路に生息している。頭は黒色。胸は淡紅色で、黒い縦条がある。日野町では6月中旬から7月中旬にかけて発生する。

### 【オオマドボタル】

体長：オス 10.5mm 前後

昼間も夜も活動する両行性のホタル。昼間に弱い持続した光を放つ。前胸背板の前方に透明な部分が窓のように見えるのでマドボタルと呼ばれる。

### 【オオオバボタル】

体長：オス約 10mm

頭部は小さく黒色。胸の中央と周辺部を除いて鮮やかな赤色。成虫は昼行性で、発光しない。

### 【ヒメボタル】

体長：6～9mm

国内で最も広く分布する森や林で暮らす陸生のホタル。幼虫は地表で小型の陸生貝等を捕食する。日野町では、標高によって異なるがおよそ7月上旬から7月下旬に発生する。



ヒメボタルの発光